

「ニッサンアノン[®]LA」のご紹介

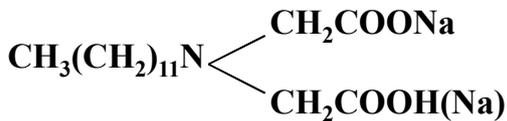
2020.6.25



さっぱりとした洗い上がりが特徴のマイルドな両性界面活性剤

1 ニッサンアノン[®] LAの特徴

★ ニッサンアノン[®]LAの化学構造



INCI NAME: Disodium Lauriminodiacetate

中文INCI NAME: 月桂亚氨基二乙酸二钠

表示名称: ラウリミノ二酢酸2Na

医薬部外品原料名称: ラウリルアミノジ酢酸ナトリウム液

化審法番号: 2-1285

CAS: 141321-68-8

性状: 淡黄色の液体で、わずかに特異臭がある。

有効成分: 約30% 塩化ナトリウム: 1.0%以下

ニッサンアノン[®] LA

幅広いpH領域での使用が可能

Features 1

● 二塩基酸型の界面活性剤ですので、弱酸性からアルカリ性までご希望のpHでの使用が可能です。

優れた起泡性

Features 2

● 皮膚と同じ弱酸性領域 (pH=5~6) で高い起泡性を示します。また、細かく、柔らかい泡質が得られます。

特徴のある使用感

Features 3

● 皮膚洗浄料として用いた場合、非常にサッパリとした感触が得られます。

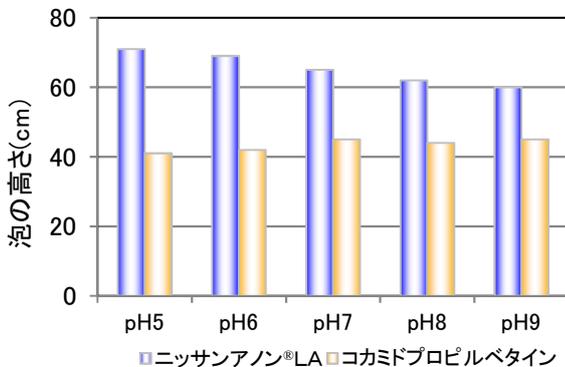
低い皮膚刺激性

Features 4

● 皮膚に対する刺激性が低いマイルドな界面活性剤です。

2 機能性

● 起泡性 (pH依存性)

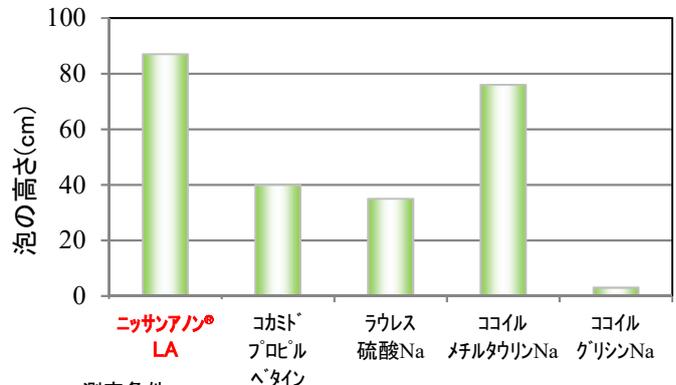


測定条件

・ミルサー法: 5秒攪拌、1分後測定 ・有効分濃度: 1wt% ・温度: 40°C
・人工硬水(CaCO₃: 100ppm) ・人工皮脂0.5wt%添加

弱酸性領域で最も優れた起泡性を発揮します。

● 起泡性 (界面活性剤比較)

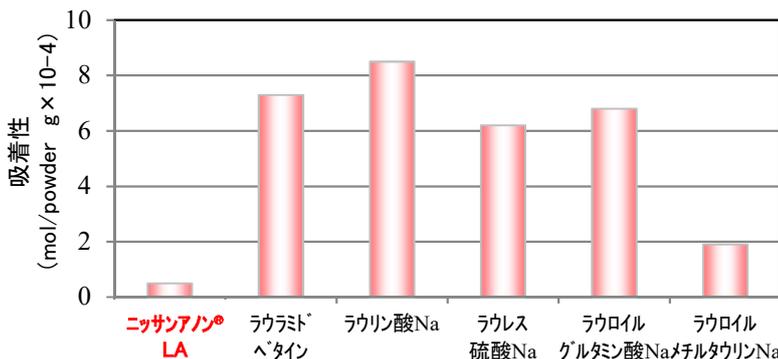


測定条件

・ミルサー法: 5秒攪拌、1分後測定 ・有効分濃度: 1wt% ・温度: 40°C
・人工硬水(CaCO₃: 100ppm)

アニオン/両性界面活性剤と比較して、同等以上の高い起泡性を発揮します。

● 皮膚モデル成分(Hide Powder)に対する吸着性



測定方法

- ① 各種界面活性剤の水溶液にHide powder を添加
- ② 40°C でインキュベーション
- ③ Hide Powderをろ過により除去
- ④ ろ液中の界面活性剤の残存量をHPLCにより測定
- ④ 処理前との差から吸着量を算出

皮膚に対する吸着性が低いマイルドな界面活性剤です。

「ニッサンアノン[®]LA」のご紹介

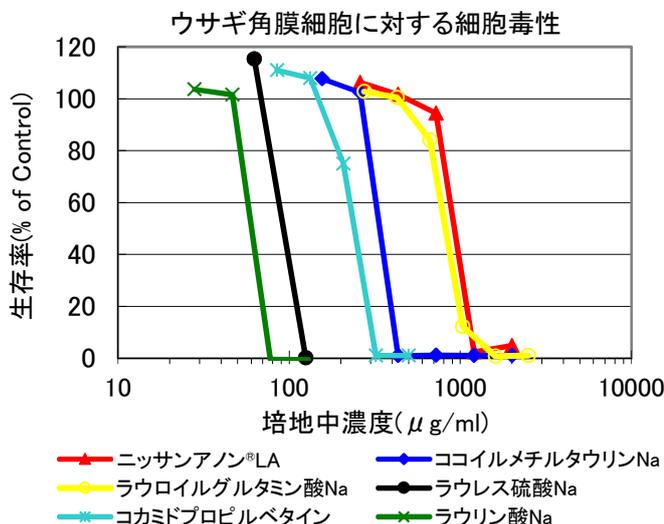
2020.6.25



さっぱりとした洗い上がりが特徴のマイルドな両性界面活性剤

3 安全性

● 細胞毒性試験



▶ 眼刺激性が低い界面活性剤です。

● 安全性試験

試験項目	結果
変異原性(Ames試験)	陰性
皮膚感作性試験	Mild(モルモット)
皮膚一次刺激性試験	軽度の刺激物質 腐食効果認められず(ウサギ)
急性経口毒性試験	5000mg/kg以上(ラット)
ヒトパッチ試験	陰性(被験者44名)

▶ 各種安全性試験において、刺激性の低い界面活性剤です。

4 処方例

シャンプー処方		ボディソープ処方		洗顔処方	
原料	配合比 (wt%)	原料	配合比 (wt%)	原料	配合比 (wt%)
ニッサンアノン [®] LA	35.0	ニッサンアノン [®] LA	25.0	ニッサンアノン [®] LA	15.0
ココイルグルタミン酸TEA	20.0	ラウリン酸	12.0	ラウリン酸	4.0
PEG7-グリセリルココエート	5.0	ミリスチン酸	5.0	ミリスチン酸	20.0
ポリクオタニウム-10	0.5	パルチミン酸	2.0	ステアリン酸	2.0
フェノキシエタノール	0.3	ステアリン酸	2.0	グリセリン	10.0
メチルパラベン	0.2	プロピレングリコール	6.0	ラウラミドDEA	4.5
EDTA	0.2	ジステアリン酸グリコール	1.7	ジステアリン酸グリコール	2.5
水	残部	ラウラミドDEA	1.5	セタノール	3.0
		塩化ナトリウム	0.8	水酸化K	5.3
		EDTA	0.5	EDTA	0.1
		水	残部	水	残部

※上記処方は弊社において鋭意検討したものではありませんが、安全性・安定性および工業所有権等の権利を保障するものではありません。製品化に関しては各位におかれまして最適化をお願い申し上げます。